

## 題材「段ボール紙による箱庭づくり」の実践的研究

虎尾 裕

本研究の目的は題材論的な仮説として「段ボール紙による箱庭づくり」を考案・設定し、その有効性を実践的に検証することにある。宮城教育大学教育学部1年生の教科専門科目「図画工作」で学生に制作させ、表現活動の後に学生に対してワークシート方式による調査を行う。こうした形で本題材に対する評価指標を探ることによって、今後も継続すべき中身と新たに改善すべき事項を確認する。その観点から、設定された題材のあり方にフィードバックして、最終的に改良版を提案する。それは学生の造形表現力を高めるのに、これまで以上に効果のある題材となるに違いない。

題材「段ボール紙による箱庭づくり」は筆者が2002年にオリジナルなものとして考案し、これまで同年以降、教育学部1年次の教科専門科目「図画工作」の授業で試みてきた制作課題である。今回初めて、題材のあり方を先行研究という学的背景の中で捉え直し、その理論的な妥当性を闡明にした。続いて題材論的な仮説としての有効性を実践的に検証するべく学生に制作させ、その後、彼らに対してワークシート方式による調査を行った。このように本題材に対する評価指標を実践的に模索することによって、教育効果と問題点を確認した。結果として、本題材の有効性が大筋で判明した。しかし「イメージ・スケッチの作成条件」と、「工作の制作条件」の内容が一部修正された題材改良版を実践するならば、教育効果がさらに高まるであろうことが想定できた。